

第三者評価結果報告書

総 括	
対象事業所名	アスク日吉本町開善保育園
経営主体(法人等)	株式会社 日本保育サービス
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒223-0062 横浜市港北区日吉本町2-46-11
設立年月日	平成17年4月1日
評価実施期間	平成 25年 7月～ 26年 4月
公表年月	平成 26年 7月
評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部
評価項目	横浜市評価基準
総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項等）	
【施設の特徴】 1. 立 地 横浜市営地下鉄グリーンライン日吉本町駅から徒歩5分、緑の丘を望む静かな住宅地の中にあり、日本保育サービス系列園であるアスク日吉本町第二保育園に隣接しています。近くには園と交流のある駒林小学校や商店街があり、その先は大規模な団地になっています。周辺には公園やプレイパークがあり、子どもたちの散歩や遊びに適した環境にあります。 2. 沿革・概要 アスク日吉本町開善保育園は平成 15 年 4 月 1 日に株式会社前進会が設立・開園して平成 20 年に株式会社日本保育サービスが経営を継承した保育園です。定員は 140 名ですが、横浜市の要請により、待機児童解消対策として 157 名（平成 25 年 12 月現在）の児童を受け入れている大規模保育園です。 3. 多様なプログラムを採用 設置法人から毎週 1 回、専門講師の派遣を受け、子どもたちは、体操教室、リトミック、英語教室と、様々な表現活動を行っています。さらに 5 歳児は全員が毎週木曜日にバイオリンの練習をし、2 月の生活発表会には演奏発表を行っています。 また、保育園開設当時よりモンテッソーリ教育を導入し、子どもたちが自分の好きな教材を自由に選んで挑戦する「おしごとの時間」を設けています。子どもたちは様々な教材に楽しく取り組み、自主性と集中力を育て、保護者からも好評を得ています。 【特に優れていると思われる点】 1. 子どもたちが目標を持ち、計画的に過ごせるような工夫 5 歳児クラスでは、年度初めに子ども一人一人が 1 年間の目標を紙に書き、クラスに掲示するようにしました。「バイオリンをがんばる」「小さいおともだちにやさしくする」などの自分の目標を毎日目にしながら、1 日を過ごしています。年度末の卒園のときには、その結果をみんなで話し合うことにしています。子どもたちが目標を持ち、1 日 1 日を過ごすことによって、自分の目標を卒園時に持ち帰り、保育園で過ごした様子が、子どもたちにとっても家族にとって成長記録として卒園後思い出になっています。（理念の実現）	

2. 食育活動における工夫

園内では、栄養士と職員の連携で、子どもの偏食を直すための工夫がなされています。みかんを輪切りにして子どもたちの興味を引いたり、リンゴでは、煮リンゴをやめてスティック状に切ったり、刻み方や盛りつけを工夫して偏食を改善しています。また、外部からは、食育活動を弘めている民間会社と交渉して専門家（「ボビー君がやってくる」に応募）が、園にやってきて野菜や果物の話を分かりやすくしてもらい、その後、お泊まり保育の際にその知識を活かして3色の食材を使って自分たちで買い物をし、ピザを作っていました。

3. 職員間の連携

職員数が47名という大人数にもかかわらず、職員間の連携がとれています。職員室で職員が現場のことを互いに伝え合い、園長の指導のもと、クラスやフロアが異なるにもかかわらず、職員が他のクラスの子どもの名前を積極的に覚え、常に子どもに声を掛けています。

【特に改善や工夫などを期待したい点】

1. 保護者との密接なコミュニケーションへの努力

アンケート結果では、「送迎時の子どもの様子についての情報交換」「話やすい雰囲気・態度」「意見や要望に対しての対応」などへの不満度（「どちらかと言えば不満」「不満」回答の合計数）が、他項目より高くなっています。園ではそれなりに努力されておりますが、園全体でのさらなる改善努力を期待します。

2. 地域の子育て支援への取り組み

近隣の地区センターなどには、園の案内パンフレットを置かせてもらって園の情報を提供していますが、子育て相談はまだ少ない状況です。周辺には大規模マンションもあり、子育て支援のニーズが高いと思われますので、そのニーズを調査検討し、子育て相談や子育て支援に関する講座の開催、園庭開放や絵本の貸し出しなど、さらに積極的に地域に対して取り組まれることが期待されます。

3. 玄関出入口の改善

保護者から、1階のウッドデッキの部分が雨の日には雨が入り込み、滑りやすくて危険、汚れてきたないとの意見が毎年のようにあります。すでに設置法人で対策・改善を計画しているとのこと、早急に処置をされことが望まれます。

評価領域ごとの特記事項

1.人権の尊重	・「子どもが自ら伸びようとする力を育てる保育」および「子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばす五感で感じる保育」を保育の基本方針とし「健康な体をつくること、友達や保育士との関わりの中で豊かな心を育てること」を園目標としており、いずれも子ども本人を尊重したものとなっており、1階の廊下に掲示して職員が常に確認しています。 ・保育課程は、保育理念、基本方針に則って作成されており、子どもの最善の利益を最優先しています。 ・言葉では表現できない子どもの気持ちや表情に留意しています。指導計画に基づく集団活動への参加に際しては、無理強いせず、やりたいという気持ちを大切に、子どもの状況に合わせて柔軟に対応しています。 ・言葉遣いは、丁寧で急がずゆっくりと話し、声の大きさも適度でした。せかしたり強制するような言動はありませんでした。
----------------	--

	・守秘義務は、設置法人に誓約書を提出するなど徹底的に周知されています。 ・個人情報取り扱いマニュアルが整備され、全職員が周知し、個人情報に関する書類は、事務所の施錠できるロッカーに保管されています。 ・行事などの役割や持ち物、服装などで性別による区別はしていません。 ・日常保育の中で、気になる職員の言動があった場合は、職員会議で取り上げて話し合っています。
2.意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	・遊び毎にマットを敷いたコーナーを設置しているほか、0～2歳児クラスは、低月齢・高月齢別の保育を取り入れています。3～5歳児クラスは異年齢児を3グループに分けて毎週1回、各保育室で縦割り保育を行っています。 ・子どもの発達に合わせたおもちゃや絵本を準備しています。ブロックでは大、小をそれぞれ使い分けています。絵本は子どもの読みたい絵本があれば購入して読んでいます。 ・3～5歳児クラスでは1週間に1、2日、モンテッソーリを「お仕事の時間」として、主体的に自分の好きな課題を集中して思う存分取り組めるようにしています。 ・落ち着いて遊べるように、「コーナー遊び係」の職員が、コーナー遊びを数多く作り充実させています。 ・年齢に応じて、英語、バイオリン、リトミックなど身体を動かすことや、ピアノを演奏したりして音楽に親しみ、様々な表現方法を体験しています。 ・週1回の縦割り保育、朝・夕の合同保育の時間・延長保育時間に異年齢（乳児、幼児）と一緒に過ごす時間を設け、年長児が年少児の面倒を見たり、教えてもらったり出来るように見守りながら援助をしています。 ・乳児クラスは連絡帳を使い、その日の出来事や子どもの成長、エピソードを記載して保護者に見てもらっています。幼児クラスは、毎日の活動記録を掲示して保護者に見てもらっています。
3.サービスマネジメントシステムの確立	・入園前に、担任が親子面談を実施して、家族構成や気になる点をヒアリングすると共に、子どもの発達状況や親子関係についても観察しています。 ・保護者の希望や勤務状況、子どもの様子に合わせて0歳児は1か月、その後は1週間程度の慣らし保育を実施、慣らし保育期間についても、子どもの様子に合わせて徐々に長くしています。 ・入園後の子どもの成長発達記録（0・1歳児は毎月、2歳児は2か月毎、3～5歳児は3か月毎に更新記入）があります。各クラス担任は、申し送り帳、児童調査票および成長発達記録の記載事項などに基づいて、進級時に重要な申し送り事項を口頭で次年度担任に伝達しています。 ・代替食、除去食は別の色のトレイを使用し、毎回、調理室と保育室で複数の職員がチェックをしています。毎日献立のアレルギーチェック表を作成し事務

	室に備えるほか、アレルギー児一覧表を各クラスと事務室に掲示して全職員が把握しています。 ・設置法人が作成した苦情対応マニュアルに苦情対応フローチャートがあり、受付担当者、受付後の対応、解決責任者（園長）、解決方法の検討（原因調査、解決方策検討会議、設置法人担当者への報告）、園長と申出人との話し合い、第三者委員の助言・調整から公表までの苦情対応プロセスを文書化しています。 ・感染症対応マニュアルが整備されており、職員や保護者にも周知しています。 ・地震、火災時のフローチャートおよび緊急連絡網を作成し、保育室、事務所に掲示しています。保護者には緊急用携帯電話で連絡が取れるように訓練を実施しました。 ・事故対応マニュアルが整備され、それに基づき保護者、地域の医療機関、消防署、警察署などの連絡網を整備し、緊急時に対応できるよう事務所に掲示しています。 ・門扉は職員、保護者所有のＩＣカードのみで開錠できるようになっています。外部者は確認の上開錠しています。警備会社と契約をしていますので、異常事態が発生した場合は、警備会社が駆けつけてくれます。また、朝夕には守衛が門の前で入門、出門を見守っています。 ・不審者対応訓練として、スクールサポーターによるDVDを使った研修、実地訓練を行っています。（スクールサポーター：港北警察署生活安全課の元警察官）
4.地域との交流・連携	・園内の状況を勘案しながら、地域の子育て支援の一環として、急な一時保育にも対応しているほか、港北区の公私立保育園が中心となり開催される合同育児講座「わくわく子育て広場」に参加したり、設置法人が開催する「りんくアイランド」に参加して保育に関する講習・研修会の役割分担をしています。 ・横浜市総合リハビリテーションセンターや北部児童相談所の職員や地域の主任児童員と気になる子どもなどの個別ケースについて相談や情報交換を行い、相互に訪問し合っています。 ・夏祭りのポスターを園の前面道路側や近隣商店街に掲示した結果、園見学者や近隣小学校の児童が参加しました。また、地域で活動しているボランティア音楽グループを招いて、園内でコンサートを開催しました。 ・商店街を散歩して店主や近隣住民と積極的に挨拶を交わしたり、5歳児が、お泊り保育の食材の買い物を商店街で体験するなど、地域の人々との触れ合いを大切にしています。
5.運営上の透明性の確保と継続性	・園の情報をホームページにアップして定期的に更新しているほか、地域のNPO法人びーのびーの「幼稚園・保育園ガイド」に掲載して提供しています。 ・職員会議やリーダー会議で園内の様々な事例を検討し、解決策を話し合って、改善を図っています。改善例として多目的室を効率よく利用できるように、職

	員で話し合い、モンテッソーリ、バイオリン、相談事など重なるときには、職員同士でお互いに話し合い、時間割を綿密にし、部屋の移動などを行って効率よく利用できるように改善しました。 ・他施設での不正や不適切事案について、設置法人より送られてきたり園長会議で得られた情報をもとに職員会議で話し合い、レポートを作成しています。 ・環境問題については、保育課程の環境欄に明記して、指導計画に反映しています。 ・園の運営に関することや、行事などの決定には運営委員会や、保護者会役員会に諮って意見を聞き決定をしています。 ・H24年度からH27年度までの中長期計画を立案して実行に移しています。H24年度は「環境への関心を高める」H25年度は「安全を考えた環境を」「異年齢との交流を深める」としています。
6.職員の資質向上の促進	・職員の人材構成については、園長が日常的に職員配置や職員の動向をチェックし、適正かどうかを判断しています。 ・人材育成ビジョンを策定し、職員の育成に力を入れています。年度始めには個人別に研修計画を立て、園長が保育方針や、その職員の育成方針に沿っているかなどを検討し、研修に参加をするようにしています。 ・内部研修として、新卒～5年目までの全職員は階層別研修を受けています。また、今年度より園内研修を開始し、不審者対応訓練の研修を実施しました。 ・休憩時間などは、常勤職員、非常勤職員も職員室で食事をしたり、話をしたりしながらコミュニケーションを図っています。 ・園長はクラス運営に関しては、最大限クラス担任の意思を尊重しています。また、運営に関する役割を職員で話し合いの上、園内整備係、環境設定係、断捨離係、図書係、お手伝い係を決め、それぞれ責任を持って任に当たっています。年度末には反省会を開き、次期への足がかりとしています。 ・職員と園長は年に3回個別面談を行い、職場に対する満足度や、要望・意見などを聞いています。

施設名:アスク日吉本町開善保育園

ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部

評価機関による評価



3つ：高い水準にある、2つ：一定の水準にある、1つ：改善すべき点がある

評価分類	評価の理由（コメント）
I－1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成 	・「子どもが自ら伸びようとする力を育てる保育」および「子どもの感受性や好奇心を自然な形で伸ばす五感で感じる保育」を保育の基本方針とし「健康な体をつくること、友達や保育士との関わりの中で豊かな心を育てること」を園目標としており、いずれも子ども本人を尊重したものとなっており、1階の廊下に掲示して職員が常に確認しています。 ・保育課程は、保育理念、基本方針に則って作成されており、子どもの最善の利益を最優先しています。 ・保育課程に基づいて、月齢や発達過程に合わせた無理のない年間、月間指導計画および週案を作成しています。 ・言葉では表現できない子どもの気持ちや表情に留意しています。指導計画に基づく集団活動への参加に際しては、無理強いせずに、やりたいという気持ちを大切にしておき、子どもの状況に合わせて柔軟に対応しています。
I－2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施 	・入園前に、担任が30分程度の親子面談を実施して、家族構成や気になる点をヒアリングすると共に、子どもの発達状況や親子関係についても観察しています。 ・保護者の希望や勤務状況、子どもの様子に合わせて慣らし保育を実施し、保育時間を子どもの様子に合わせて徐々に長くしています。 ・お気に入りのタオルやおもちゃなどを持ち込んで、心のよりどころを作っておくようにしています。0、1歳児は慣らし保育の状況を見て、ふさわしい担当職員を選定しています。1歳児クラスの年度前半は新入園児・在園児別に部屋を仕切って保育を実施しています。 ・スプーン、箸の使い方など子どもの発達状況に応じて個別指導計画および月間指導計画の作成・評価・見直しを行なっています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ・温水シャワーは1階に2か所あるほか屋上にもあり、沐浴室もあります。
- ・遊び毎にマットを敷いたコーナーを設置しているほか、0～2歳児クラスは、低月齢・高月齢別の保育を取り入れています。3～5歳児クラスは異年齢児を3グループに分けて毎週1回、各保育室で縦割り保育を行っています。

- ・清掃チェック表・分担表を作成して園内、室内の清掃状況のチェックを行い、遊具は毎日昼休みに消毒するなど、衛生面に配慮しています。

<コメント・提言>

- ・構造上、雨天の日には玄関前がどうしても濡れてしまいます。改修工事など何らかの対策が望まれます。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ・0～2歳児は、個別指導計画を月ごとに作成し、クラスミーティングで子どもの様子などについて担任間の意見交換をし、前月の反省を活かして翌月の個別指導計画や週案のねらい（目標）や計画を策定しています。

- ・入園後の子どもの成長発達記録（0、1歳児は毎月、2歳児は2か月毎、3～5歳児は3か月毎に更新記入）があります。

- ・各クラス担任は、児童票、成長発達記録および申し送り帳の記載事項などに基づいて、進級時に重要な申し送り事項を口頭で次年度担任に伝達しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ・特に配慮を要する子どもについて、個別記録のほか、職員会議、リーダー会議、昼礼で話し合った会議の記録があります。

- ・玄関の段差をなくし、1階のトイレは車椅子が入れるスペースを確保し、手すりを設置しています。横浜市総合リハビリテーションセンターとの連携を図り、当園に観察に来てもらい日頃の保育に取り入れたり、同センターを見学しています。

- ・保護者と家庭や園内での子どもの様子を情報交換し合い、子どものペースを尊重した個別指導計画を立てています。

- ・朝の受け入れ、身体拭き、おむつ交換や着替えの時に体の傷や痣を確認し、虐待が疑われる場合には保護者に事情を聞き、職員会議で検討し、設置法人とも相談し、必要に応じて状況を撮影したりスケッチをして関係機関に通報しています。

- ・代替食、除去食は別の色のトレイを使用し、毎回、調理室と保育室で複数の職員がチェックをしています。毎日献立のアレルギーチェック表を作成し事務室に備えるほか、アレルギー児一覧表を各クラスと事務室に掲示して全職員が把握しています。

- ・新たな外国籍の子どもが入園する都度、習慣や考え方の違いについて職員同士で話し合って理解し合っています。簡単な英会話やジェスチャーで伝え方を工夫しています。

<工夫している事項>

- ・アレルギー疾患のある子どもの担当職員は、子どもが食事を終えて保育室を出るまで見守るようにしています。

評価分類	評価の理由（コメント）
I－6 苦情解決体制 	・第三者委員の氏名と連絡先および設置法人の苦情相談窓口の電話番号を玄関ロビーに掲示し、玄関ロビーに意見箱を備え、行事終了後には保護者アンケートで保護者の意見を聞いています。 ・保護者会が実施したアンケートに寄せられた意見を尊重すると共に、日々の送迎時には、保護者にできる限り声を掛けるようにしています。 ・苦情対応マニュアルに苦情対応フローチャートがあり、受付担当者、受付後の対応、解決責任者（園長）、解決方法の検討（原因調査、解決方策検討会議、設置法人担当者への報告）、園長と申出人との話し合い、第三者委員の助言・調整から公表までの苦情対応プロセスを文書化しています。保護者からの意見や要望に対する回答は、職員会議で周知するほか、非常勤職員にも報告し、保護者にも園だよりや掲示で周知しています。

評価分類	評価の理由（コメント）
II－1 保育内容[遊び] 	・子どもの発達に合わせたおもちゃや絵本を準備しています。ブロックでは大、小をそれぞれ使い分けています。絵本は子どもの読みたい絵本があれば購入して読んでいます。 ・3～5歳児クラスでは1週間に1、2日、モンテッソーリを「おしごとの時間」として、主体的に自分の好きな課題を集中して思う存分取り組めるようにしています。 ・落ち着いて遊べるように、「コーナー遊び係」の職員が、コーナー遊びを数多く作り充実させています。 ・園庭ではオクラ、トマトなどの野菜を栽培して、その手入れや成長を観察して、観察日記をつけています。金魚やカブトムシを飼育し、餌をやったり観察をしています。 ・既往症やアレルギーのある子どもは禁止された遊びをせず、別の遊びを職員がついていて見守っています。例えば小麦アレルギーの子どもには、小麦で作った粘土遊びはやめて他の遊びに変えたり、心臓疾患のある子どもには、走ったり激しい運動を伴う遊びはやめて、静かな遊びをするようにしています。 ・散歩や遠足へ行き、近所の商店街の人や地域の人達と挨拶を交わし、交流を深めています。また、プレイパークへ行き、プレイリーダーに遊びを教えてもらい、普段は経験したこともないことを楽しんだり、自然に触れる機会を設けています。 ・夏祭りでは手作りのお神輿を担いで商店街を練り歩き、地域との交流を図っています。 ・年齢に応じて、英語、バイオリン、リトミックなど身体を動かすことや、ピアノを演奏したりして音楽に親しみ、様々な表現方法を体験しています。 ・週1回の縦割り保育、朝・夕の合同保育の時間・延長保育時間に異年齢（乳児、幼児）が一緒に過ごす時間を設け、年長児が年少児の面倒を見たり、教えてもらったりできるように見守りながら援助をしています。

Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- ・食事の量については、盛りつける前に予め子どもに食べたい量を聞き盛りつけています。少食の子どもには盛りつけを少なくして完食の喜びを味わい、多く食べたい子どもには、お代わりを用意しています。
- ・食事の前には、3歳児以上はお当番を決め、配膳をしたり歌のかけ声をかけたりして食事の始まりを演出しています。
- ・3歳児以上は毎月1回クッキング保育の時間を設け、様々な食材にふれ、調理活動を楽しんでいます。また、1歳児はトウモロコシの皮むきや、2歳児はハロウィンでクッキーを作ったりしています。
- ・食品会社主催の食育活動「ポピー君がやってくる」に応募し、ポピー君に園にきてもらい、野菜や果物の話をしてもらいました。その知識をもとにお泊まり保育のときには、食育の一環として3色の食材を使ってピザを作り美味しくできました。
- ・子どもの好き嫌いは職員が把握して、毎月1回の給食会議で話し合っています。盛りつけや刻み方を変更したりしています。ミカンを輪切りにしたり、煮リンゴをやめて素材をスティック状に切ったりして変化を付けて食欲がでるように工夫し、今まで食べられなかった子どもがおいしそうに食べるようになりました。
- ・年度始めのクラス懇談会では、試食会を行っています。60%の保護者が参加してくれています。また、ならし保育時にはアレルギー食の試食も行っています。
- ・SIDS対策としては、うつぶせ寝の防止を図るとともに、0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごとに呼吸チェックをし（タイマーを使用）胸の動きや触診を行って問題がないことを確認しています。その結果は睡眠記録簿（乳児保育日誌）に記入しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- ・健康管理マニュアルが整備されており、それに基づいて個人別の健康状態を把握して日常の保育に活かしています。健康状態は児童票や保育日誌に記録されており、職員は必要なときに閲覧しています。
- ・毎日、園での健康状態を送迎時に伝えています。検温は乳児については1日3回行っています。また、必要があれば降園後の対応についても職員や看護師がアドバイスをしています。
- ・健康診断は年2回、歯科健診は年1回実施し、その結果は記録として保管しています。結果は連絡帳や口頭で保護者に知らせています。所見のある場合は書面にして伝えています。
- ・感染症対応マニュアルが整備されており、職員に周知しています。入園のしおりに感染症についての特徴や潜伏期間、登園の可否、治癒証明の要不要の一覧が記載されており、保護者にも周知しています。
- ・保育中に感染症が発生した場合は応急処置をするとともに、事務所などで休ませ、保護者に電話連絡をしています。保護者の都合に合わせて、お迎え時間を調整したり、必要があれば、病院へ連れて行くなどの処置を行います。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



- ・設置法人の作成した衛生マニュアルがあり、各保育室に置いて、職員はいつでも手にとって見ることができるようにしています。マニュアルは職員会議で読み合わせを行い、改善点などを設置法人に連絡し、改訂をしています。
- ・衛生マニュアルは入社研修や毎年１回職員会議で読み合わせを行っています。
- ・清掃はチェックシートに従って、毎日、毎週、毎月、使用の都度に区分けし、清掃を行っています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



- ・地震、火災時、事故対応のフローチャートおよび緊急連絡網を作成し、保育室、事務室に掲示しています。保護者には緊急用携帯電話で連絡が取れるように訓練を実施しました。
- ・毎月１回避難訓練を実施しています。防災用品として防災ずきん、避難靴、懐中電灯、ランタンなどを用意しています。訓練では一時避難場所と広域避難場所までの訓練を行いました。
- ・職員は赤十字幼児安全法を取得しています。（23名中15名が取得）
- ・保育中にケガや事故が発生した場合は園長や主任に報告するとともに、漏らさず必ず職員間で伝え合い、申し送り帳に記録しています。その日の昼礼で全職員に連絡をし、共有しています。また、アクシデントトラブルノートまたはインシデントトラブルノートに記録し、原因や処置、再発防止策、保護者への対応について明確にしています。
- ・門扉は職員、保護者所有のＩＣカードのみで開錠できるようにになっています。外部者は確認の上開錠し入門してもらっています。警備会社と契約をし、朝夕には守衛が門の前で入門、出門を見守っています。
- ・不審者対応訓練として、スクールサポーターによる研修（ＤＶＤを使った）、実地訓練を行っています。（スクールサポーター：港北警察署生活安全課の元警察官）

Ⅱ－４ 保護者との交流・連携



- ・園だよりには、年度初めに運営理念や基本方針を掲載しています。連絡帳やクラスだよりには、具体的な活動や職員の配慮について記載しています。

- ・毎日の送迎時には、保護者とできる限り口頭で、その日の子どもの様子やエピソードを伝えるように努力しています。

- ・乳児クラスは連絡帳を使い、その日の出来事や子どもの成長、エピソードを記載して保護者に見てもらっています。幼児クラスは、毎日の活動記録を掲示して保護者に見てもらっています。

- ・園やクラスの様子を伝えるために年4回運営委員会、クラス懇談会を開催して伝えています。また、懇談会のない月には行事があり、その後で、園やクラスの様子を伝えたり、意見や要望を聞く機会を設けています。

- ・園だより、クラス便りは毎月発行して、保護者に配付しています。また、英語、リトミック、給食、体操、食育だよりも毎月発行しています。

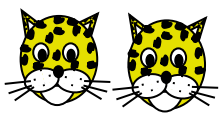
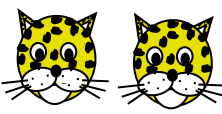
- ・子どもの製作物は室内や階段に掲示して子どもや保護者が見られるようにしています。

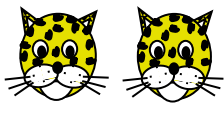
- ・日頃普段の子どもの遊んでいる様子など、保護者が見ることのできない様子を写真やビデオにしてクラス懇談会や、掲示して見てもらっています。

- ・保護者会組織があり、必要があれば多目的室などを提供しています。そこでは人形劇やマジックショー、リサイクルで「お下がり会」を催しました。保護者会組織とは、特に役員とは常に連絡を取り合っています。

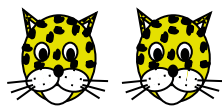
<コメント・提言>

- ・毎日の送迎時には、その日の子どものエピソードなどをさらにいっそう保護者に伝えることの検討を期待します。

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供 	・園内の状況を勘案しながら、地域の子育て支援の一環として、急な一時保育にも対応しているほか、港北区の公私立保育園が中心となり開催される合同育児講座「わくわく子育て広場」に参加したり、設置法人が開催する「りんくアイランド」に参加して保育に関する講習・研修会の役割分担をしています。 ＜コメント・提言＞ ・夏祭りや運動会に近隣住民を招待していますが、その際に、園に対する子育て支援関連の要望を含むアンケートなどを実施することが望まれます。 ・子育てに不安を抱く保護者が増加しており、不安の内容も多様化していますので、地域の子育て支援ニーズについて職員間で話し合うことが望まれます。
Ⅲ－２ 保育園の専門性を活かした相談機能 	・横浜市総合リハビリテーションセンターや北部児童相談所の職員や地域の主任児童委員と気になる子どもなどの個別ケースについて相談や情報交換を行い、相互に訪問し合っています。 ・毎週木曜日（13～15時）を定例の育児相談日と定めて園の前面道路側に掲示しています ＜コメント・提言＞ ・町内会などに園のお知らせや育児相談についての情報などを提供することが望まれます。

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ 	・夏祭りのポスターを園の前面道路側や近隣商店街に掲示した結果、園見学者や近隣小学校の児童が参加しました。 ・商店街を散歩して店主や近隣住民と積極的に挨拶を交わしたり、5歳児が、お泊り保育の食材の買い物を商店街で体験するなど、地域の人々との触れ合いを大切にしています。 ＜コメント・提言＞ ・地域に向けて園庭や園舎の開放、絵本などの備品の貸し出しが望まれます。
Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供 	・園の情報をホームページにアップして定期的に更新しているほか、地域のNP0びーのびーの発行の幼稚園・保育園ガイドに提供して掲載しています。 ・見学希望者の都合に合わせて、見学の日時を決めています。見学者に対しては「入園のご案内」を渡して、掲示物を見ながら、必要に応じて保育理念、園目標、保育内容および園行事などの説明を実施しています。わかりにくい延長保育料の説明などは、図解した資料に基づいて説明を行っています。

Ⅳ－３ 実習・ボランティアの受け入れ



・平成25年2月には、聖ヶ丘教育福祉専門学校から1名の実習生を受け入れ、実習生の実際の保育場面を観察しながら、職員と実習生とで保育方法に関する園内研修を実施しました。

<コメント・提言>

・ボランティアの受け入れを園の課題の一つに掲げており、早期の実現が望まれます。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
Ⅴ－１ 職員の人材育成 	・職員の人材構成については、園長が日常的に職員配置が適正かどうかを判断しています。 ・人材育成ビジョンを策定し、職員の育成に力を入れています。年度初めには個人別に研修計画を立て、園長が保育方針や、その職員の育成方針に沿っているかななどを検討し、研修へのアドバイスをしています。また、他園研修を実施したり、新人職員にはチューター制度（新人育成担当者）を決め、日常的な相談にのったり、月に1度食事をしながら、落ち着いた雰囲気の中で近況報告をしたりし、その内容を園長に報告し、コメントをもらっています。 ・内部研修として、新卒～5年目までの全職員は階層別研修を受けています。また、今年度より園内研修を開始し、不審者対応訓練の研修を実施しました。 ・研修内容については研修報告書を作成し、園に提出、発表や回覧などを通して、全職員に周知しています。また、研修の中で日常保育に適用できることや、工夫をして生かせることは、職員会議で話し合い、実現しています。 ・職員の配置は、常勤職員と非常勤職員とを組み合わせたり、ベテラン非常勤職員と新人職員とを組み合わせたり、シフトを組むときに配慮しながら行っています。 ・非常勤職員もクラスの話し合いに参加し、申し送り帳を確認しています。また、赤十字幼児安全法を取得しています。 ・休憩時間などは、常勤職員、非常勤職員も職員室で食事をしたり、話をしたりしながらコミュニケーションを図っています。

評価分類	評価の理由（コメント）
V－2 職員の技術の向上 	・職員の自己評価は、年間目標に対する自己評価、指導計画に対する反省と見直しを行い、計画表に記録して、次期の計画に反映させています。 ・職員会議やリーダー会議で園内の様々な事例を検討し、解決策を話し合っ、改善を図っています。改善例として多目的室を効率よく利用できるように、モンテッソーリ、バイオリン、相談事など重なるときには、職員同士でお互いに話し合い、時間割を綿密にし、部屋の移動などを行って効率よく利用できるように改善しました。 ・発達支援に関する専門講師の研修や指導を受け、今後の保育の参考にしています。 ・障がい児保育について、横浜市総合リハビリセンターの巡回相談による指導を受けています。 ・年間指導計画、月間指導計画、週案は設置法人で決められた様式を使って作成し、その期のねらい、前記の振り返り、評価・反省欄があり、計画と実績が関連づけています。 ・職員の年度目標や指導計画の自己評価をした結果は、職員会議で反省会を行い、みんなで話し合っています。その結果、保育園としての反省や改善点について、周知・確認し、次期（中期計画）の改善テーマとしています。 ・H25年度は、設置法人の理念である「安全・安心」を課題として安全を伴った環境構成を作るとしています。
V－3 職員のモチベーションの維持 	・設置法人の作成した「人材育成ビジョン」が整備されています。 ・園長はクラス運営に関しては、最大限クラス担任の意思を尊重しています。また、運営に関する役割を職員で話し合いの上、園内整備係、環境設定係、断捨離係、図書係、お手伝い係を決め、それぞれ責任を持って任に当たっています。年度末には反省会を開き、次期への足がかりとしています。 ・職員からの提案や業務改善については、職員会議やリーダー会議で話し合っ、改善につなげています。また、休憩時間など職員室での会話の中で、お互いに要望や改善点を話し合っています。 ・園長は職員と年3回個別面談を行い、職場に対する満足度や、要望・意見などを聞いています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
VI－1 経営における社会的責任 	・職員は、不正や不適切な行為を行わないように、就業規則、業務マニュアルに規定し、入社時研修や、入社後には職員会議などで話し合いをしています。 ・設置法人にはコンプライアンス委員会が設置され、園内に掲示をしたり、プリントを配付して周知しています。 ・経営・運営状況などは、設置法人のホームページに詳細に掲載されています。また、園単独の運営状況は園だよりや運営委員会で積極的に話しています。 ・他施設での不正や不適切事案は設置法人より情報が送られてきたり、園長会議で得た事例を職員会議で話し合い、レポートを作成しています。 ・ゴミの減量化では、コピー用紙の裏紙使用、色画用紙の切れ端を集めて再利用したり、リサイクルボックスを設置して廃材を集め、おもちゃの素材として使っています。また、ペーパータオルや水を使いすぎないようにしています。 ・省エネでは、エアコンの温度調節をこまめに行い、必要のない場所の電灯を消すなどしています。また、「節電チェックシート」に記入しています。 ・環境問題については、保育課程の環境欄に明記して、指導計画に反映しています。
VI－2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等 	・保育理念、園目標を廊下の目のつきやすい場所に示しています。年度初めの職員会議や、第三者評価の自己評価を行う際には職員で読み合わせ、理解できているかどうか確認しています。 ・園の運営に関することや行事などの決定には、運営委員会や、保護者会役員会に諮って意見を聞き決定をしています。 ・保護者会からアンケートや改善提案事項が伝えられ、その内容について、クラスや職員会議で検討をしています。 ・園内で環境設定、安全管理など職員でグループを作り、定期的に集まって状況把握や改善策の検討を行っています。また、栄養士と職員が毎月給食会議で話し合っています。

VI－3 効率的な運営



- ・事業運営に関する情報は主として設置法人が収集し、分析をしています。その情報は毎週開催される園長会議で園長が聞いて持ち帰り、職員会議などで職員に伝えています。
- ・設置法人からの指示事項や重要な変更などは、職員会議で議論をして全員で共有して取り組んでいます。
- ・改善課題は全職員で話し合い、議論の上で決定し、園全体の問題として取り組んでいます。
- ・H24年度からH27年度までの中長期計画を立案して実行に移しています。H24年度は「環境への関心を高める」H25年度は「安全を考えた環境を」「異年齢との交流を深める」としています。
- ・次代の組織運営については、設置法人の企画部門で、運営や新しいプロセスについて検討をしています。その結果は園長会議などで伝えられ、園に持ち帰っています。
- ・設置法人では、全体の施設運営について、幹部職員の育成を行っています。また、園長は主任の育成や、次代の主任候補を育成しています。
- ・設置法人が外部の機関から幼児教育プログラムや保育の安全について指導を受けています。

利用者家族アンケート

結果の特徴

アンケート回収率 総世帯数135世帯 回収64通 回収率47%

下記のアンケート結果分析に使用する「満足度」は、「満足」と「どちらかといえば満足」回答の合計値を表しています。

◇総合満足度

施設に対する総合評価の満足度は90%と高い評価です。

◇満足度の高い(90%以上)項目

- 1) 基本理念を知っていると答えた人のうち「保育方針が賛同できるか」については98%という高い満足度です。
- 2) 入園時の状況では、「入園前の情報提供」「子どもの生育歴を聞く」が高い満足度を表しています。
- 3) 生活について「給食」「昼寝や体調への気配り」の満足度が高くなっています。
- 4) 保護者との連携では、「迎えが遅くなる時の柔軟な対応」は満足度が高いです。
- 5) 職員の対応については「子どもが園生活を楽しんでいるか」が95%の満足度です。

◇比較的満足度の低い項目

「どちらかと言えば不満」「不満」が合わせて20%以上となっているのは、

- 1) 遊びでは、散歩や地域交流などの「園外活動」に不満があります。
- 2) 生活では「ケガの説明や対応」に不満が見られます。
- 3) 快適さでは「施設設備」「落ち着いて過ごせる雰囲気」に不満が多く、特に「施設設備」では半数以上となっています。
- 4) 保護者との連携では「送迎時の情報交換」「相談への対応」で、保護者とのコミュニケーションの工夫が望まれます。
- 5) 職員の対応では「話しやすい雰囲気」「意見・要望への対応」に不満が多くなっています。

調査結果

■園の基本理念や基本方針について

施設の基本理念や基本方針の認知	よく知っている	まあ知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
	15%	58%	15%	8%	2%	2%

↓ 問1で「よく知っている」、「まあ知っている」と回答した方のうち

付問1

理念や方針への賛同	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
	67%	31%	2%	0%	0%	0%

■施設のサービス内容について

問2 入園した時の状況

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	41%	41%	7%	0%	9%	2%
	その他：見学未実施					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	39%	45%	9%	0%	5%	2%
	その他：よく知っていたから。					
入園時の面接	48%	37%	2%	0%	11%	2%
	その他：					
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応は	50%	44%	2%	0%	2%	2%
	その他：					
園の目標や方針についての説明には	34%	48%	11%	2%	2%	3%
	その他：					
保育園での1日の過ごし方についての説明には	40%	44%	9%	3%	2%	2%
	その他：					
入園後に食い違いがなかったかなども含め、費用やきまりに関する説明については	36%	50%	7%	2%	3%	2%
	その他：					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	36%	48%	14%	0%	0%	2%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23%	63%	6%	2%	3%	3%
	その他: 今年度からの入園なのでわかりません。					

問4 日常の保育内容について

遊びについて	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	47%	32%	14%	3%	2%	2%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	38%	42%	12%	3%	3%	2%
	その他: 実際どういうものを使用しているか分からない。					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	37%	41%	15%	5%	0%	2%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	45%	42%	5%	5%	0%	3%
	その他: よくわからない。					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	36%	48%	9%	3%	2%	2%
	その他:					

生活について	満足	どちらかといえは満足	どちらかといえは不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	62%	33%	3%	0%	0%	2%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	61%	32%	5%	0%	0%	2%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	51%	39%	5%	2%	0%	3%
	その他:					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	41%	37%	5%	0%	12%	5%
	その他: まだ取り組んでいないから。					

お子さんの体調への気配りについては	43%	51%	2%	2%	0%	2%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	36%	39%	15%	6%	2%	2%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	11%	34%	36%	17%	0%	2%
	その他:					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	19%	55%	11%	9%	3%	3%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	35%	51%	5%	5%	2%	2%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	25%	54%	11%	5%	3%	2%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	36%	50%	9%	3%	0%	2%
	その他: 経験がない。まだ入所して日が浅いためわからない。					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	38%	48%	9%	3%	0%	2%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	42%	40%	14%	2%	0%	2%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	24%	45%	23%	3%	3%	2%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	29%	53%	11%	3%	2%	2%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	29%	47%	14%	6%	2%	2%
	その他: わからない。					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	61%	32%	3%	2%	0%	2%
	その他:					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	37%	51%	6%	2%	2%	2%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	50%	45%	3%	0%	0%	2%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	36%	47%	0%	2%	12%	3%
	その他: アレルギーがないため、具体的には不明。					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	32%	39%	19%	6%	2%	2%
	その他: 人によりばらつく。					
意見や要望への対応については	28%	36%	26%	5%	3%	2%
	その他:					

問8 保育園の総合的評価

	満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
総合満足度は	45%	45%	6%	2%	2%

観察方式による利用者本人調査

平成 26 年 1 月

施設名：アスク日吉本町開善保育園

◇0 歳児

(朝の遊び)

0 歳児の保育室は、畳を敷いた部分とカラーマットを敷き詰めた部分があり、子どもたちは好きな方へ行って、ブロックや手作りおもちゃで遊んでいました。

12 名の乳児に 4 名の職員が対応していました。部屋の壁には「ひなまつり」の集合写真が掲示されています。みんなの楽しそうな顔が写っています。また、子どもそれぞれの似顔絵が貼ってあります。職員が子どもの似顔絵を描いた物です。

担任職員が、歌を歌って玉入れ遊びが始まりました。自分で玉を入れることができない子どもに、は職員が手を添えて手伝っていました。

(朝のおやつ)

朝の自由遊びが終わって、いよいよおやつの時間になりました。今日のメニューはクッキーで、子どもたちがいすに座り準備ができると、早速美味しそうに食べ始めました。また、カップに入ったお茶を飲んでいました。職員は子どもの姿勢を直したり、声をかけたりしながら支援をしていました。

(園内散歩)

訪問調査日はとても寒い日であったため、外への散歩を変更して、園内散歩に切り替えました。保育室側から外の廊下伝いに外側をまわり、園内の廊下の入り口から園内に入って玄関までのコースを何回も廻っていました。外へ出るので寒さには変わりませんが、数回廻ったのでかなりの運動量になっています。

◇1 歳児

(園庭遊び)

天気予報が雪という寒い日でしたが、子どもたちは元気に園庭で走ったり砂遊びをしました。職員は見守り、転んだ子どもがいたら手を引いて泥をはらい「痛くない？」などと声を掛けていました。

最後に男性職員を先頭に、園庭を何回もぐるぐる回っていました。職員も子どもたちも息を切らせて走りきりました。

足の砂を払って保育室の中に入り、職員に支援されながら着替えをしました。

(午前中の遊び)

リトミック活動終了後、ままごとグループとパズル遊びグループの組分けをして遊びを開始しました。子どもたちは自分のやりたい遊びのグループへ入ります。

(昼食)

昼食の準備ができるまで、部屋の片隅で職員が絵本の読み聞かせをしていました。一部の子どもは話を聞かないで後ろで遊んでいましたが、ほとんどの子どもは真剣な眼差しで読み聞かせを聞いていました。

食事の準備ができ、給食の歌を歌って食事が始まりました。食べ方が早い子ども、遅い子ども、話に夢中になる子どもなど様々で、職員は見守りながら自分の食事を早めに終わらせて、食事を支援していました。

◇2 歳児

(朝の会の後)

自由遊びをしました。ブロックで遊ぶ子ども、絵本を読む子ども、友達と話をする子どももいました。

段ボールで製作した流し台で、子どもたちが遊んでいます。床にはテープで「ケンケンパー」遊びの印があり、ここで遊んでいる様子が分かります。また、ホワイトボードシアター（紙芝居のホワイトボード版）をみんなが見ています。

(生活発表会練習)

2 歳児は、まもなく幼児クラスに進級するので、上履きを履いて生活発表会の練習をしています。テーマは「あかかぶ」です。

(昼食前)

食事の準備ができるまでは、職員が絵本の読み聞かせをしていました。子どもたちは職員の周りを囲んで、お話を真剣に聞いていました。

◇3 歳児

(体操)

体操の先生が机の脚と自分の間に 2 本のゴム縄を引っ張って、下にマットを敷いて子どもたちが 2 本のゴム縄の間のマットに手を突いて前転や側転をしています。側転をして着地で立ち上がった子どもがいると先生が「よく着地できました」と声をかけます。上手にできない子どもに対しては、ゴム縄の高さを低く調節します。前転がうまくできない子には先生が手を添えています。次に不完全ながら自分でできると、先生と周りの子どもが手を叩いて誉めていました。

(昼食)

配膳の準備ができるまでは、職員の絵本の読み聞かせを静かに聞いていました。

4人1組でテーブルと椅子をセットしてから手洗いをして、自分のハンカチとコップを各自のテーブルに運んでいました。

食事が終わった順に、自分の歯ブラシを持ってきて、歯磨きをしました。最後に職員から仕上げみがきをしてもらいます。

◇4 歳児

(体操)

後転の準備段階として、マットの上で仰向けに寝て背中を丸めて足を顔の上に伸ばす「ゆりかご」体操をしていました。

(合唱)

本日の当番を務める男女各1名が前に出て、主役を体験しています。職員のピアノ伴奏に合わせて大きな声で元気よく合唱しています。

(昼食)

4名ずつテーブルを囲んで食事が始まりました。静かに落ち着いて食べています。本日は行事食で、皿に盛られた炊き込みご飯の型が馬の顔に仕立てられ、グリーンピースの目が付けられています。グリーンピースの目を食べる時は躊躇しています。子どもたちは興味を持って食べ、食が進まない子どもは見当たりません。お代わりを支援する職員を除いて、職員は自分の席で落ち着いて子どもと共に食事を楽しんでいます。

お代わりの澄まし汁を席に持ってきた子どもの茶碗の中を見ると、ナルトが山盛り入っています。子どもに聞くとナルトが大好きだと言い、全部食べきれのかなと思って観察していると、瞬く間にきれいに完食しました。

(絵本の読み聞かせ)

午睡の前に、担任が絵本の読み聞かせを行っていました。子どもたちは、お話を聞きながら気持ちが次第に落ち着いて、眠りに誘われていきます。

◇5 歳児

(生活発表会準備)

保育室の床に縦、横、斜めに色テープを貼って、演劇の練習をしています。担任が子どもたちにヒアリングして、子どもが好きな絵本から演劇の題材を選択したり、子どもが好きな歌に振りを付けたりして台本を作成し、子どもの自主性や主体性を尊重しています。

台本の進行に合わせて担任が次の行動を数名の子どもたちに口頭で促しましたが、戸惑っている子どもに対しては、そっと背中を押して目指す方向に誘導しています。

(体操)

5歳児室の窓を開放して換気をしてから体操が始まりました。おしり歩きでマットに移動、マットの端を掴んだり、友達と手をつないでマット上で頑張っている子どもを担任や体操の先生がくすぐり、一人一人引き離していきます。最後にマットの上に子どもを乗せ先生が引っ張って動かしました。全員で先生に挨拶をして終了しました。

(バイオリン練習)

多目的室に専門の先生が来て、3、4名のグループごとにバイオリンの練習をします。楽譜を見るとシャープが3つ付いていて一見難しそうなイ長調の楽譜でした。「何で敢えて難しい楽譜を使っているのですか」と休憩時間に担当の先生に聞くと、「イ長調が最もバイオリンの弦を押さえやすいのでイ長調の楽譜を使用している」ということでした。

(昼食)

給食当番の子どもが前に出て本日のご飯、味噌汁、個々のおかずを読み上げて、各自のお盆に「ありますか？」と聞くと子どもたちが一斉に「あります」と答えます。手を合わせて「いただきます」をしてから食事を開始しました。

職員が、現在の時刻12時30分、お代りの開始時刻12時35分、食事の終了時刻12時50分と食事のスケジュールとともに食事の時間が長めなので適度にお話をしながら食べてもよいことを告げました。職員は子どもたちと食事を共にしながら、肘をついたまま食事をしている子どもや会話がなくて食事の進行が遅い子どもに注意したり、子どもたちの様子を良く観察しています。

食事前の活動が体操の時間であったため、お腹が空いていたことや、本日の煮物が細かく刻まれていて食べやすいためか、早めに食べ終わって、お代わりの開始時刻を待っている子どもが多くいました。

アスク日吉本町開善保育園

【審査の動機】

運営主体の理念として、「利用者に本当に求められるサービスを提供すること」を掲げており、利用者調査を元に保護者の真のニーズを把握し、その想いを日々の運営に反映させるべく評価審査に臨みました。開園 9 年目となり、これまで築いた土台に加え、園独自で取り組んでいることを振り返り、課題に取り組むいい機会として捉えました。また常に利用者のニーズに添い、選ばれ続ける施設でありたいと考えております。審査にあたり、職員一人一人が趣旨を理解し、取り組むことができました。

【審査した結果】

第三者評価の受審をきっかけに、園全体で日々の保育や運営について振り返ったり見直したりしながら、自己評価を行うことができました。評価結果から保護者との連携に関しては、職員としては行っていると思っていたところが、実際には伝わっていないことが多く厳しい評価になったり、地域交流については、方法が分からず実践できていないことが評価につながってたりしました。自分たちで気付けていない部分も、気付けているが実践できていない部分も含め、今後の園としての課題が明確になりました。また、5 歳児の保育については、職員が工夫している保育を評価していただき、日々の保育の自信につながりました。

今後は、更に地域に根づいた良い園を目指して、現在の園の課題を抽出し、中長期的な展望のもとに園運営の方向性を示し、その実現に向けて努力していきます。

最後に今回の第三者評価の受審に際し、ご尽力いただいた評価機関の皆様、そしてご多忙にも関わらず、利用者調査にご協力いただいた保護者の皆様に心より感謝申し上げます。